



朝、道端で真新しい黄色い帽子をかぶった新一年生らしき子が、泣いていました。お父さんが、手をつなぎ学校まで連れ添って行くようです。

例年、4月を期待と緊張で過ごし、連休明けに元の生活に戻りにくくなることは、大人でも子どもでもあることです。ましてや、年度末から休校や自粛を繰り返し、本来の「慣らし」が十分に行えていない今年は、新生活に慣れることが難しいですね。

玉川大学教授の大豆生田（おおまめうだ）氏は「親の緊張は子どもに伝わってしまう。子どもはゆっくり新しい生活に慣れていくので、保護者も焦らずに慣らし保育を進めて」と話す。「子どもにとって、子ども同士というのは魅力を感じるもの。時間がかかっても、気持ちを切り替えていけるので、心配しすぎないで大丈夫です」とのこと。

また、休日は特別なことをするのではなく、ごはんを作って一緒に食べる、絵本を読む、ゆったりお風呂に入るなど普通の習慣を大切にすることが大切だそうです。大豆生田氏は「一緒に過ごす時間の長さではなく、質を意識して」と助言しています。（読売新聞 令和2年4月9日付より）

我が子の慣らし保育でも、保育士さんから「朝は泣くけれど、『行ってくるね♪』と笑顔でさらりと離れるのが大切。離れがたくなるのは親も子ども同じ。お迎えに来た時に、『ただいま。よく頑張ったね』と、ぎゅ〜っと抱きしめてあげて」とアドバイスをされました。

学童クラブに通う新1年生は、学校とクラブという2つの新生活と人間関係に長時間緊張しています。おうちの方も仕事で疲れています。平日のごはんや家事は、大いに手抜きしても良いのでは。すべてを完璧にしようとして、子どもを追い立てているかもしれません。私は、登園前に自分で靴を履こうとする我が子に「はやく、はやく、いわないで〜!!!」と号泣されました。「子どもはゆっくり育つもの」と思い、焦らずに行きましょう。【Y】
☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★